

平成28年度(2016)事業計画

自 平成28年4月 1日

至 平成29年3月31日

一般社団法人望遠鏡工業会では非営利性を目的としての平成28年度(2016)活動を実施し、4委員会を中心に公益性の高い事業を行うと共に、入門者に向け望遠鏡・双眼鏡の魅力を広く告知し、需要拡大、業界の活性化に向けた活動をさらに推進する。

以上を踏まえ、当工業会は、平成28年度(2016)の事業活動を以下の通り実施する。

1. 国際標準化規格関連事業の推進

- 1.1 ISO/TC172/SC4:本年度は、国際派遣はおこなわず、電子会議等での対応になったが引続き日本側意見を集約し積極的に提案していく。
- 1.2 JIS:本年度はISO14490-7(分解測定方法)に関連して、「望遠鏡試験方法—第7部—分解能限界」について、JIS 原案作成委員会による審議を進め JIS 化の実現を目指す。

2. 広報活動の推進(ホームページ・イベント)

- 2.1 ホームページ:一般向けには統計、イベント、バナーリンクなど適宜対応する。また、会員向けには会員専用ページの開設によりメリットが享受できるようきめ細かい対応をはかっていく。
- 2.2 イベント出展:
出展を予定している主なイベントは、原村星まつり、三鷹・星と宇宙の日、練馬まつりなど。
なお、胎内星まつり、バードフェスティバル、産業交流展、CP+には出展しない予定。
- 2.3 歴史関連資料(現品含む)については、整備後に一般公開、イベント展示、ホームページに掲載する。

3. 諸統計の作成整備

- 3.1 双眼鏡・望遠鏡の輸出入動向:従来通り財務省提供の輸出入統計は会員向けには会報にて、また一般向けにはホームページでの掲載を継続する。
- 3.2 主力のプリズム式双眼鏡:自主統計参加会社の協力のもと、国内外マーケット動向に関する調査分析、整備を拡大推進する。

4. 関連行政機関との相互コミュニケーションの充実、関連団体との連携維持、促進

- 4.1 関係行政機関:内閣府、経済産業省、環境省、文部科学省、厚生労働省、東京都産業労働局とは、調査依頼・情報共有・課題提案に対して迅速に対応する。
- 4.2 関連団体:
 - ・軽機械センター運営協議会からは、主に欧州・中国情報について情報を得る。
 - ・日本光学工業協会(光学関係 8 団体)とは、ISO/JIS/技能検定などに関する協力体制、及び情報共有を維持推進する。
 - ・日本写真映像用品工業会、天体望遠鏡博物館とは、賛助会員同士として協力関係を維持する。
 - ・日本天文協議会を通じて国立天文台、他の天文関連団体との協力関係を進める。

5. 工業会活動の推進

- 5.1 技術委員会主催による技術研修会(年二回予定)を継続する。
- 5.2 業界活性化委員会は課題を共有し、国内市場の活性化を推進していく。